

2020年

10月27日(火)

2021年

1月17日(日)

休館日▽10月30日(金)～11月14日(土)、

11月30日(月)、12月28日(月)～1月3日(日)

第34回

啄木資料展

テーマ展示 啄木の思想をたどる

時間

午前9時～午後8時

場所

岩手県立図書館4階展示コーナー



展示資料目録

岩手県立図書館

はじめに

岩手県立図書館では開館当初から、郷土を代表する作家である“石川啄木”と“宮沢賢治”についての資料を網羅的に収集するよう努めております。新しく収集した資料(図書・雑誌・視聴覚資料等)は、隔年で開催する「啄木資料展」「賢治資料展」で、それぞれ県民の皆様に公開展示しております。

今回の第34回啄木資料展は、第74回読書週間(10月27日～11月9日)にあわせ、前回の展示以降約2年間(平成30年8月～令和2年7月)で、当館が収集した石川啄木関連資料を展示します。あわせて、啄木が抱いた思想の移り変わりを、自身の作品や当時の文学等を通して紹介するテーマ展示「啄木の思想をたどる」を行います。

時代を越えて今日もなお、読み継がれ愛され続けている啄木作品の魅力や世界観、そして彼の生き方を、新旧の資料の中から感じ取っていただければ幸いです。

岩手県立図書館

凡 例

1 収録内容

新規収蔵啄木文庫編

- (1)平成30年8月1日から令和2年7月31日までの間に当館で収集した石川啄木関連資料(啄木文庫) —— 69点
- (2)参考資料として、平成30年8月1日から令和2年7月31日までの間に当館で収集した石川啄木関連資料のうち、雑誌など、今回の資料展で展示していない資料 —— 26点
併せて、同期間中に「岩手日報」に掲載された石川啄木関連記事を収録しています。

テーマ展示編

- (1)「啄木の思想をたどる」展示資料 —— 88点
※複数巻にわかれている資料を1タイトルとして扱っている場合があります。
- (2)参考資料として、解説文
※取り上げた人物の名前の表記は、本名・雅号など複数ある場合がありますが、煩雑さを避けるため、最も一般的と思われる表記に統一しました。

2 記載順、記載事項について

- (1)新規収蔵啄木文庫編は書名読みの50音順、テーマ展示編は概ね展示順に掲載しました。
- (2)請求記号とは、当館の整理記号(ラベル記号)です。

タク201
ニ1
1

例) タク=啄木文庫 K=郷土資料 S=雑誌 KS=郷土雑誌

- (3)「館外貸出」の欄に“○”が付いているものは、貸出可能な資料です。ただし展示期間中の貸出はできません。新規収蔵啄木文庫の貸出可能資料は、貸出用の複本がございますので、3階郷土資料カウンターにお問い合わせ下さい。

目 次

▼新規収蔵啄木文庫編

【展示資料】

啄木作品/啄木に関する図書	1
啄木に関する図書(一部掲載)	2

【参考資料】

啄木に関する雑誌	5
啄木関係新聞記事索引(岩手日報)	6

▼テーマ展示編

【展示資料】

啄木の思想をたどる	7
-----------	---

【参考資料】

啄木の生涯	11
啄木の思想をたどる	13
物語に見る啄木	22

新規収蔵啄木文庫編



新規収蔵啄木文庫

平成30年8月1日～令和2年7月31日受け入れ

啄木作品

No	資料名	編著者名等	出版者	出版年	請求記号	館外貸出
1	あこがれ 名著復刻詩歌文学館<石楠花セツト>	石川 啄木 著 名著復刻全集編集委員会 編	日本近代文学館	1981.12	タ/918.6/41	○
2	天鷲絨・他 石川啄木小説選	石川 啄木 著	本の泉社	2020.7	タ/913.6/11	○

啄木に関する図書

No	資料名	編著者名等	出版者	出版年	請求記号	館外貸出
3	石川啄木 (岩波講座日本文学史第13巻)	岩城 之徳 [著]	岩波書店	1959.2	タ/910.268/17	
4	石川啄木記念館館報 平成29年度	盛岡市文化振興事業団 石川啄木記念館 編集	盛岡市文化振興事業団 石川啄木記念館	2018.9	タ/910.268/11/2017	○
5	石川啄木記念館館報 平成30年度	盛岡市文化振興事業団 石川啄木記念館 編集	盛岡市文化振興事業団 石川啄木記念館	2019.9	タ/910.268/11/2018	○
6	石川啄木記念館展示ガイド 第2版	盛岡市教育委員会事務局 歴史文化課 編集	盛岡市教育委員会事務局 歴史文化課	2019.9	タ/910.268/11	○
7	石川啄木直筆「短冊・油絵」考 資料調査・報告ファイル 改訂	奥州文庫 編集	奥州文庫 奥州文庫刀剣美術館	2018.10	タ/910.268/11	
8	石川啄木直筆「短冊・油絵」考 資料調査・報告ファイル 6 改訂4版	奥州文庫 編集	奥州文庫 奥州文庫刀剣美術館	2020.4	タ/910.268/11	○
9	石川啄木と岩手日報	小林 芳弘 著	桜出版	2019.12	タ/910.268/10A	○
10	石川啄木の過程	新木 安利 著	海鳥社	2019.9	タ/910.268/75	○
11	石川啄木の詩による組曲 混声合唱とピアノのための	平川 加恵 作曲 石川 啄木 作詩	全音楽譜出版社	2019.3	タ/767.08/15	○
12	石川啄木文献書誌集大成 続	佐藤 勝 著	桜出版	2018.12	タ/910.268/11/2	○
13	石川啄木・宮澤賢治自筆書画作品集 附・異筆意見VS著者反論 改訂	奥州文庫 編集	奥州文庫	2020.4	タ/910.268/11	○
14	クイズで楽しむ啄木101	大室 精一 著 佐藤 勝 著 平山 陽 著	桜出版	2019.7	タ/910.268/14	○
15	国際啄木学会研究年報 第22号 (2019)	国際啄木学会研究年報 編集委員会 編集	国際啄木学会	2019.3	タ/910.268/10/22	○
16	国際啄木学会研究年報 第23号 (2020)	国際啄木学会研究年報 編集委員会 編集	国際啄木学会	2020.3	タ/910.268/10/23	○
17	胡堂と啄木	郷原 宏 著	双葉社	2019.11	タ/910.268/105	○
18	世界は啄木短歌をどう受容したか	池田 功 編	桜出版	2019.10	タ/911.162/11	○
19	啄木歌碑さんぽ	渡邊 喬 著	[渡邊喬]	2020.2	タ/911.162/12	○
20	啄木・賢治 4号	啄木月曜会 編集	石川啄木・宮澤賢治 を研究し広める会	2019.5	タ/910.268/105/19	○
21	啄木・賢治 5号	啄木月曜会 編集	石川啄木・宮澤賢治 を研究し広める会	2020.3	タ/910.268/105/20	○
22	啄木そっくりさん	大室 精一 著	桜出版	2019.7	タ/911.162/11	○
23	啄木第一号歌碑建立物語 無名青年たちの奮闘 石川啄木記念館第10回企画展		盛岡市文化振興事業団 石川啄木記念館	2018.10	タ/910.268/11	○
24	啄木断章	碓田 のぼる 著	本の泉社	2019.10	タ/910.268/11	○

No	資料名	編著者名等	出版者	出版年	請求記号	館外貸出
25	啄木と文の京 盛岡市・文京区友好都市提携記念 石川啄木記念館12回企画展	—	盛岡市文化振興事業団石川啄木記念館	2019	㏍/910.268/ ㏍	○
26	啄木と若山牧水 啄木の最後を見届けた友人 石川啄木記念館第9回企画展	—	盛岡市文化振興事業団石川啄木記念館	2018.5	㏍/910.268/ ㏍	○
27	啄木のうた～柴田外男の世界～ 盛岡市・文京区友好都市提携記念 石川啄木記念館第11回企画展	—	盛岡市文化振興事業団石川啄木記念館	2019	㏍/910.268/ ㏍	○
28	たった一人の啄木 石川啄木・流浪の軌跡	中森 美方 著	思潮社	2018.8	㏍/910.268/ ㏍	○
29	米沢と石川啄木 北條元一史料の「再発見」	山崎 潔 [著]	[米沢市芸術文化協会]	2018.3	㏍/910.268/ ヤ	○
30	わが夫啄木	鳥越 碧 著	文藝春秋企画出版部	2018.12	㏍/913.6/㏍	○

啄木に関する図書（一部掲載）

No	資料名	編著者名等	出版者	出版年	請求記号	館外貸出
31	逸脱する批評(クリティーク)	齋藤 慎爾 著	コールサック社	2019.2	㏍/910.264/ サイ	○
32	お金本	左右社編集部 編	左右社	2019.10	㏍/914.68/ カ	○
33	芸文かづの 第44号 評論 啄木と樹人の青春に想いを馳せる 地域の歴史を掘り起こしたコンサートを実施して 村木哲文著	鹿角市芸術文化協会 編集	鹿角市芸術文化協会	2018.3	㏍/910.268/ ケイ/44	○
34	芸文かづの 第45号 「論評 「石川啄木・小田島樹人 鹿角ゆかりの地ガイドマップ」制作と「ゆかりの地巡り」を実施して」 村木哲文著	鹿角市芸術文化協会 編集	鹿角市芸術文化協会	2019.3	㏍/910.268/ ケイ/45	○
35	現代北海道文学論 来るべき「惑星思考」に向けて	岡和田 晃 編 岡和田 晃 [ほか著]	藤田印刷エクセレントブックス	2019.12	㏍/910.264/ ケン	○
36	ことばと文字 地球時代の日本語と文字を考える 12(2019年秋号)	—	日本のローマ字社	2019.10	㏍/810.5/ コト/12	○
37	視線 文芸誌 復刊第4号 評釈・啄木詩三編 近藤典彦著 天才の顔 中村園著	—	視線の会	2013.10	㏍/910.268/ シ/4	○
38	視線 文芸誌 復刊第5号 啄木の小説「道」を読む 近藤典彦著 新詩社同人推挙問題 柳澤有一郎著	—	視線の会	2014.12	㏍/910.268/ シ/5	○
39	視線 文芸誌 第7号 啄木調短歌-その誕生と確立- 近藤典彦著 文学を求めて-啄木の北海道- 山下多恵子 啄木歌 「肺が小さくなれる」考 柳澤有一郎著	—	視線の会	2017.1	㏍/910.268/ シ/7	○
40	視線 文芸誌 第9号 「郁雨は啄木最悪の友となった-絶交とその後の真実-」 近藤典彦著 「啄木の東京を歩く」 水関清著	—	視線の会	2019.1	㏍/910.268/ シ/9	○
41	視線 文芸誌 第10号 創刊十周年記念特別号 「啄木最後の日々-貧窮・結核・予言・創作・佳き人たち-」 近藤典彦著 「復元・『悲しき玩具』収載歌一覧」 水関清著	—	視線の会	2020.3	㏍/910.268/ シ/10	○
42	詩的行為論	吉田 裕 著	書肆山田	2018.5	㏍/904/ヨシ	○

No	資料名	編著者名等	出版者	出版年	請求記号	館外貸出
43	小説は書き直される 創作のバックヤード	日本近代文学館 編	秀明大学出版会	2018. 12	㏍/910. 26/シヨ	○
44	タヌキとキツネ偉人の名言	有沢 ゆう希 著 アタモト 原作 イラスト	講談社	2019. 11	㏍/159. 8/ア	○
45	ドナルド・キーン著作集 第15巻 正岡子規 石川啄木	ドナルド キーン 著 [角地 幸男 訳]	新潮社	2018. 10	㏍/910. 8/キ/15	○
46	日本の文学	ドナルド キーン 著 吉田 健一 訳	中央公論新社	2020. 2	㏍/910. 4/キ	○
47	日本文学ノート 第54号 『一握の砂』における三つの歌群が示す照応-啄木が捉えた刹那のいのち- 鈴木綾華著	宮城学院女子大学日本文学会 編集	宮城学院女子大学日本文学会	2019. 7	㏍/910. 268/ニホ/54	○
48	日本文学を読む・日本の面影	ドナルド キーン 著	新潮社	2020. 2	㏍/910. 2/キ	○
49	日本ベントス学会誌 71-2 北限のスナガニの季節的な砂浜利用パターン:啄木はスナガニに出会えたか? 五嶋聖治著	日本ベントス学会編集委員会 編	日本ベントス学会	2017. 3	㏍/910. 268/ニホ/71-2	○
50	函館 歌と文学の生まれる街 その系譜と精神風土	吉岡 栄一 著	アルファベータブックス	2020. 3	㏍/910. 26/ヨシ	○
51	評伝菅野須賀子 火のように生きて	堀 和恵 著	郁朋社	2018. 8	㏍/910. 268/ホ	○
52	ふみくら 第2号(2019年) 「石川啄木と一関」 佐藤竜一著	一関・文学の蔵 編集	一関・文学の蔵	[2019]	㏍/910. 268/フミ/2	○
53	文豪春秋	ドリヤス工場 著	文藝春秋	2020. 6	㏍/910. 26/ドリ	○
54	文豪聖地巡礼	朝霧 カフカ 監修	立東舎	2020. 6	㏍/910. 26/アサ	○
55	文豪たちのラブレター	別冊宝島編集部 編	宝島社	2018. 9	㏍/910. 26/アサ	○
56	文豪たちの憂鬱語録	豊岡 昭彦 編 高見澤 秀 編	秀和システム	2020. 6	㏍/910. 26/アサ	○
57	文豪と借金	「文豪と借金」編集部 編	方丈社	2020. 4	㏍/918. 6/アサ	○
58	文豪の悪態 皮肉・怒り・嘆きのスゴイ語彙力	山口 諤司 著	朝日新聞出版	2020. 5	㏍/910. 26/ヤマ	○
59	北翔大学教育文化学部研究紀要 第4号(2019) 啄木:その静謐な佇まい 水野信太郎著	北翔大学 編集	北翔大学	2019. 1	㏍/910. 268/ホク/4	○
60	北翔大学教育文化学部研究紀要 第5号(2020) 啄木の文芸生活と賢治の農事活動 水野信太郎著	北翔大学 編集	北翔大学	2020. 1	㏍/910. 268/ホク/5	○
61	北翔大学北方圏学術情報センター年報 生活福祉研究・生涯学習研究 Vol. 10(2018) 歌人・石川啄木ゆかりの建築物と啄木ゆかりの地における歴史的環境 水野信太郎著	北翔大学北方圏学術情報センター 編集	北翔大学北方圏学術情報センター	2018. 11	㏍/910. 268/ホク/10	○
62	北翔大学北方圏学術情報センター年報 生活福祉研究・生涯学習研究 Vol. 11(2019) 歌人・若山牧水:原点としての日向-啄木の最期を看取った友人- 水野信太郎著	北翔大学北方圏学術情報センター 編集	北翔大学北方圏学術情報センター	2019. 11	㏍/910. 268/ホク/11	○
63	ほっかいどう先人探訪 北の歴史を彩った53人	読売新聞北海道支社編集部 編	柏艫舎	2019. 1	㏍/281. 1/ホク	○
64	マンガ名詩・短歌・俳句物語 3	—	学研プラス	2020. 2	㏍/911. 02/マシ/3	○

No	資料名	編著者名等	出版者	出版年	請求記号	館外貸出
65	民主文学 第645号(2019年6月号) 啄木詩「老将軍」考-越境するナ ショナリズム-前編 碓田のぼる 著	日本民主主義文学会 編集	日本民主主義文学会	2019. 6	㏍/910. 268/ ミ/2019-6	○
66	民主文学 第646号(2019年7月号) 啄木詩「老将軍」考-越境するナ ショナリズム-後編 碓田のぼる 著	日本民主主義文学会 編集	日本民主主義文学会	2019. 7	㏍/910. 268/ ミ/2019-7	○
67	明治・大正・昭和を生き抜いた 孤高の歌人	土岐善麿 長浜 功 著	社会評論社	2018. 4	㏍/910. 268/ カ	○
68	森鷗外宛書簡集 文京区立森鷗外 記念館所蔵 2	文京区立森鷗外記念館 企画 編集	文京区立森鷗外記念 館	2019. 7	㏍/910. 268/ 刊/2	○
69	米沢文化 第47号(2018) 米沢と 石川啄木北條元一史料の「再発 見」 山崎潔著	米沢市芸術文化協会総 務委員会 編	米沢市芸術文化協会	2018. 3	㏍/910. 268/ ヨ/47	○

*ここに掲載している雑誌は展示しておりませんので、閲覧希望の方は、3階郷土資料カウンターにお問い合わせ下さい。

啄木に関する雑誌

No	資料名	出版者	出版年	請求記号	館外貸出
1	石川啄木記念館だより 6号	盛岡市文化振興事業団石川啄木記念館	2019.5	KS/㉗/13	
2	釧路啄木会さいはて便り 20~21号	釧路啄木会	2018.9~ 2019.3	KS/㉗/㉗2	
3	国際啄木学会盛岡支部会報 27~28号	国際啄木学会盛岡支部	2018.10~ 2019.10	KS/㉗/㉗6	一部可
4	国際啄木学会会報 37~38号	国際啄木学会	2019.3~ 2020.3	KS/㉗/㉗2	一部可

啄木に関する雑誌 (一部掲載)

No	資料名	著者名等	出版者	出版年	請求記号	館外貸出
5	短歌 第65巻 第11号 通巻851号 啄木ごっこ(第1回)好きな人、嫌いな人	松村 正直	角川文化振興財団	2018.11	S/911/㉗ 4/65-11	
6	短歌 第65巻 第12号 通巻852号 啄木ごっこ(第2回)国語教科書の中に	松村 正直	角川文化振興財団	2018.12	S/911/㉗ 4/65-12	
7	短歌 第66巻 第1号 通巻853号 啄木ごっこ(第3回)生誕地、常光寺	松村 正直	角川文化振興財団	2019.1	S/911/㉗ 4/66-1	
8	短歌 第66巻 第2号 通巻854号 啄木ごっこ(第4回)一禎と旧派和歌	松村 正直	角川文化振興財団	2019.2	S/911/㉗ 4/66-2	
9	短歌 第66巻 第3号 通巻855号 啄木ごっこ(第5回)ふるさと洪民村	松村 正直	角川文化振興財団	2019.3	S/911/㉗ 4/66-3	
10	短歌 第66巻 第4号 通巻856号 啄木ごっこ(第6回)岩手山と北上川	松村 正直	角川文化振興財団	2019.4	S/911/㉗ 4/66-4	
11	短歌 第66巻 第5号 通巻857号 啄木ごっこ(第7回)城下町盛岡	松村 正直	角川文化振興財団	2019.5	S/911/㉗ 4/66-5	
12	短歌 第66巻 第6号 通巻858号 啄木ごっこ(第8回)盛岡中学校と雑誌「明星」	松村 正直	角川文化振興財団	2019.6	S/911/㉗ 4/66-6	
13	短歌 第66巻 第7号 通巻859号 啄木ごっこ(第9回)カンニング、退学、夭折	松村 正直	角川文化振興財団	2019.7	S/911/㉗ 4/66-7	
14	短歌 第66巻 第8号 通巻860号 啄木ごっこ(第10回)一回目の上京	松村 正直	角川文化振興財団	2019.8	S/911/㉗ 4/66-8	
15	短歌 第66巻 第9号 通巻861号 啄木ごっこ(第11回)新詩社、与謝野鉄幹・晶子	松村 正直	角川文化振興財団	2019.9	S/911/㉗ 4/66-9	
16	短歌 第66巻 第10号 通巻862号 啄木ごっこ(第12回)『みだれ髪』の模倣、浪漫主義	松村 正直	角川文化振興財団	2019.10	S/911/㉗ 4/66-10	
17	短歌 第66巻 第11号 通巻863号 啄木ごっこ(第13回)詩人「啄木」	松村 正直	角川文化振興財団	2019.11	S/911/㉗ 4/66-11	
18	短歌 第66巻 第12号 通巻864号 啄木ごっこ(第14回)詩の新しいリズム	松村 正直	角川文化振興財団	2019.12	S/911/㉗ 4/66-12	
19	短歌 第67巻 第1号 通巻865号 啄木ごっこ(第15回)日露戦争とナショナルリズム	松村 正直	角川文化振興財団	2020.1	S/911/㉗ 4/67-1	
20	短歌 第67巻 第2号 通巻866号 啄木ごっこ(第16回)二回目の上京と詩集『あこがれ』	松村 正直	角川文化振興財団	2020.2	S/911/㉗ 4/67-2	
21	短歌 第67巻 第3号 通巻867号 啄木ごっこ(第17回)『あこがれ』の評価・評判	松村 正直	角川文化振興財団	2020.3	S/911/㉗ 4/67-3	
22	短歌 第67巻 第4号 通巻868号 啄木ごっこ(第18回)一禎罷免のこと	松村 正直	角川文化振興財団	2020.4	S/911/㉗ 4/67-4	
23	短歌 第67巻 第5号 通巻869号 啄木ごっこ(第19回)節子と「啄木新婚の家」	松村 正直	角川文化振興財団	2020.5	S/911/㉗ 4/67-5	

■ 啄木関係新聞記事索引(岩手日報) ■

平成30年8月～令和2年7月までに「岩手日報」に掲載された関係記事を収録しています。

記事	年月日	ページ
★学芸余聞★ 絵はがきで啄木に親しみ	2018.08.02	12
明治の写真館 存続危機 函館 ブーム過ぎ客足減 北海道最古、啄木も撮影	2018.08.15	24
郷土作家の素顔に迫る 北上・流泉小史の会 手紙解読し書簡集 研究資料に活用	2018.08.25	22
【盛岡】 教壇の啄木に思いはせ 旧渋民尋常小校舎で「講座」	2018.09.03	09
【盛岡】 古里思う啄木ひもとく 県立図書館資料展 新収蔵文献も紹介	2018.09.18	16
【九戸】 「一握の砂」歌碑に感激 しぶたみ啄木会見学	2018.10.10	22
★アンテナ★ 次世代へ啄木顕彰伝える	2018.10.12	04
★体感ふるさと★(80) 北上・文学碑巡り 眼前に唱えれば深み	2018.10.14	23
啄木と文芸環境考察 国際学会 東京セミナー 「明星」「スバル」題材に	2018.10.17	13
啄木歌碑 礎の物語 盛岡の記念館企画展 全国初の建立に焦点 地元渋民の尽力伝える	2018.10.19	11
【盛岡】 市と文京区、交流加速 提携記念実行委が発足	2018.11.08	18
【大船渡】 「一握の砂」の背景 ソムリエひもとく 市民講座で山本さん	2018.11.29	18
続啄木文献集を刊行 佐藤さん(国際学会理事)20年分収集	2018.12.14	13
啄木の青春時代に光 盛岡てがみ館 後輩の書簡紹介	2019.02.01	11
【盛岡】 啄木を思って じっと札見る かるた大会	2019.02.18	21
啄木の縁 友好都市調印 生誕地盛岡市と死没地東京・文京区 ひ孫真一さん碑揮毫 金田一さん(京助の孫、杏林大教授)講演	2019.02.21	16
啄木と尋常小、深いゆかり 盛岡・記念館収蔵資料展 日誌、教案など40点	2019.02.22	12
【盛岡】 「先人の最期」に焦点 市記念館 家族宛て遺書など展示	2019.03.19	20
盛岡中の偉人 絆示す 「てがみ館」6月17日まで企画展 啄木ら 恩師との書簡 「黄金時代」卒業後も交流	2019.04.03	18
■盛岡 早世の歌人しのぶ 啄木命日に法要や講話 渋民・宝徳寺	2019.04.14	23
啄木忌に心重ねる歌 盛岡で前夜祭 若手女性歌人が披露	2019.04.17	19
★郷土の本棚★ わが夫(つま) 啄木 鳥越 碧著 妻・節子の真実を探る	2019.04.21	09
正直さ胸打つ啄木日記 盛岡・渋民 池田さん(明治大教授) 講話	2019.04.23	14
啄木短歌伝える絵はがき 盛岡・記念館で企画展 柴田さん(一戸)表現	2019.05.25	11
★展望台★ キーンさん人柄しのぶ	2019.06.01	19
■盛岡 啄木の魅力伝える 顕彰祭 沼田さん(芥川賞作家)ら対談	2019.06.02	23
盛岡市との友好一層 東京・文京区 啄木の生涯しのぶ講座	2019.07.06	26
啄木と賢治 世界の宝 盛岡で講演 豪の作家が高く評価	2019.07.10	12
■盛岡 文京区との絆育む桜 渋民公園で記念植樹	2019.08.06	18
★郷土の本棚★ クイズで楽しむ101 大室精一、佐藤勝、平山陽著 短歌鑑賞深め	2019.08.18	18
啄木と金田一 アニメ化 来春放送、声優に浅沼さん(盛岡出身)	2019.10.05	26
啄木、京助 たどる足跡 盛岡・2記念館で企画展 文京区(東京)との縁機に	2019.11.14	13
★学芸余聞★ 「永遠」の啄木 世界に発信	2019.11.21	11
★2019 いわて学芸回顧★(5) 文芸 県人が歷程新鋭賞に 魅力広がる啄木と賢治	2019.12.12	14
啄木研究の可能性探る 国際学会・東京セミナー	2020.02.04	12
★新刊寸評★ 胡堂と啄木 郷原 宏著	2020.02.09	10
★学芸余聞★ 「啄木の思い込み」が背景	2020.02.12	10
■盛岡 啄木の縁 交流深化へ覚書 盛岡市教委、函館と締結	2020.02.16	18
啄木の証し 故郷へ 妹・三浦光子の孫、哲朗さん(神戸) 「最後の手紙」寄贈 父歌稿や自筆書簡も 盛岡の記念館収蔵	2020.02.19	24
啄木の書簡を入手 盛岡・森さん 岩手日報との関係示す	2020.02.29	15
啄木と故郷の交流に焦点 盛岡の記念館 収蔵資料展	2020.03.24	12
■盛岡 啄木楽しむ講座 受講団体を募集 国際学会支部	2020.03.30	14
啄木鳥探偵處 18日から放映 めんこいテレビで	2020.04.15	15
★いわて物語の風景★(3) 石川啄木「一握の砂」 盛岡・渋民 心にあり続けた郷里	2020.06.04	11
★特集★ 京助 啄木 刻んだ絆 岩手日報所蔵資料からたどる 執筆快諾 思い出回想 五十五回忌寄稿	2020.06.21	18

テーマ展示編



■ 啄木の思想をたどる ■

啄木の生涯

No	書名	編著者名	出版者	出版年	請求記号/所蔵先	館外貸出
1	石川啄木肖像[写真]				石川啄木記念館	
2	従兄達に囲まれた10歳の啄木[写真]				石川啄木記念館	
3	明星 卯年第5号	—	東京新詩社	1903	S/911/ミ4/3-5	
4	あこがれ	石川 啄木 著	小田島書房	1905	タ/15/21	
5	婚約時代の啄木と節子[写真]				石川啄木記念館	
6	黄草集【詩稿ノート複製】	石川 啄木 [著]	盛岡啄木会	1976	タ/8/29	○
7	小天地 第1巻第1号	石川 一 編	小天地社	1905. 9	タ/9/6	
8	紅苜蓿【復刻版】第1冊	—	函館市文化・スポーツ振興財団	1991. 10	タ/ハ^1/1-1	○
9	暇ナ時【肉筆複製版】	[石川 啄木 著]	[八木書店]	[1956. 10]	タ/11/47	
10	創作 第1巻第8号	—	東雲堂書店	1910. 10	S/911/ヨ2/1-8	
11	一握の砂	石川 啄木 著	東雲堂書店	1910	タ/11/42	
12	悲しき玩具	石川 啄木 著	東雲堂書店	1912	タ/11/43	
13	啄木の書簡 明治35年7月20日 小林花郷宛	石川 啄木 著	—	1902	タ/6/13	

啄木の思想をたどる

ロマン主義・天才主義期

No	書名	編著者名	出版者	出版年	請求記号/所蔵先	館外貸出
14	明星【複製版】第3第5号	『明星』複製刊行会 著	臨川書店	1979	911. 05/ミ1/3-5	○
15	明星【複製版】卯歳第12号	『明星』複製刊行会 著	臨川書店	1979	911. 05/ミ1/ウトシ-12	○
16	新詩社同人[写真]				石川啄木記念館	
17	名著復刻全集 近代文学館 〔18〕たけくらべ	名著復刻全集近代文学館編集委員会 編集 樋口 一葉 著	日本近代文学館博物館	1968 大正7年刊の復刻	918. 6/=6/1-15	○
18	名著復刻全集 近代文学館 〔30〕武蔵野	名著復刻全集近代文学館編集委員会 編集 国木田 独歩 著	日本近代文学館民友社	1968 明治34年刊の復刻	918. 6/=6/1-24	○
19	名著復刻全集 近代文学館 〔36〕高野聖	名著復刻全集近代文学館編集委員会 編集 泉 鏡花 著	日本近代文学館佐久良書房	1968 明治41年刊の復刻	918. 6/=6/1-28	○
20	名著復刻全集 近代文学館 〔32〕みだれ髪	名著復刻全集近代文学館編集委員会 編集 与謝野 晶子 著	日本近代文学館東京新詩社	1968 明治34年刊の復刻	918. 6/=6/1-22	○
21	名著復刻全集 近代文学館 〔19〕若菜集	名著復刻全集近代文学館編集委員会 編集 島崎 藤村 著	日本近代文学館春陽堂	1968 明治30年刊の復刻	918. 6/=6/1-16	○

No	書名	編著者名	出版者	出版年	請求記号/所蔵先	館外貸出
22	樗牛全集 第4巻	高山 樗牛 著	博文館	1921. 8	918. 6/㊦3/2-4	
23	あこがれ	石川 啄木 著	小田島書房	1905	㊦/911. 56/イ	
24	岩手日報 (マイクロフィルム複製)	明治38年(1905)5月23日 「詩集『あこがれ』 広告」				
25	函館・苜蓿社同人と啄木[写真]				石川啄木記念館	
26	校友会雑誌 第9号	—	岩手県立盛岡中学 校校友会雑誌部	1904	KS/37/㊦2/9	
27	雲は天才である	石川 啄木 著	第一書店	1947. 6	㊦/3/1	
28	明星【複製版】午歳第12号	『明星』複製刊行会 著	臨川書店	1979	911. 05/㊦1/㊦㊦ [*] シ-12	
29	卓上一枝	石川 啄木 著	河出書房	1951	㊦/8/7/15	
30	岩手日報 (マイクロフィルム複製)	明治36年(1903)6月9日 「ワグネルの思想 (5)」				
31	明星【複製版】申歳第7号	『明星』複製刊行会 著	臨川書店	1979	911. 05/㊦1/㊦㊦ [*] シ-7	○
32	暇な時	石川 啄木 著	河出書房	1949	㊦/11/9	
33	名著複製全集 近代文学館 〔22〕一握の砂	名著複製全集近代文学館編 集委員会 編集 石川 啄木 著	日本近代文学館 東雲堂書店	1968 明治43年刊の 復刻	918. 6/㊦6/2-17	○
34	新編石川啄木全集 第8巻	石川 一 著	改造社	1938	㊦/8/4/8	
35	明星【複製版】申歳第10号	『明星』複製刊行会 著	臨川書店	1979	911. 05/㊦1/㊦㊦ [*] シ-10	○
36	スバル 第1年第1~3号	—	昴	1909. 1~3	㊦/9/3/1	
37	岩手日報 (マイクロフィルム複製)	明治39年(1906)1月1日 「古酒新酒」				

自然主義歌人として

No	書名	編著者名	出版者	出版年	請求記号/所蔵先	館外貸出
38	明治四十一年日誌 続	石川 啄木 著	河出書房	1950. 11	㊦/8/7/23	
39	スバル 第1年10~12号	—	昴	1909. 10~12	㊦/9/3/4	
40	ジェルミナル 上巻	エミール ソラ [著]	三笠書房	1951	953/㊦ [*] 1/4-1	
41	早稲田文学 明治39年第6号、第8号、第9号	—	早稲田文学社	1906	S/905/㊦1	
42	創作 第1巻第1号	—	東雲堂	1910. 3	S/911/㊦2/1-1	
43	新選名著複製全集近代文学館 田舎教師	田山 花袋 著	日本近代文学館 左久良書房	1973. 9 明治42年刊の 復刻	918. 6/㊦21/13	○
44	新選名著複製全集近代文学館 破戒	島崎 藤村 著	日本近代文学館 島崎藤村	1973. 9 明治39年間の 復刻	918. 6/㊦21/11	○
45	畑れる田園	前田 夕暮 著	アルス	1926	914. 6/㊦4/1	
46	別離	若山 牧水 著	東雲堂書店	1910	911. 168/㊦㊦/	

No	書名	編著者名	出版者	出版年	請求記号/所蔵先	館外貸出
47	死か芸術か	若山 牧水 著	東雲堂書店	1912	911.16/71/4	
48	特選名著複製全集近代文学館 [12] Nakiwarai	特選名著複製全集近代文学館 編集委員会 編集 土岐 哀果 著	日本近代文学館 ローマ字ひろめ会	1971.7	918.6/≒6/5-12	○
49	佇みて	土岐 哀果 著	東雲堂書店	1913.11	911.16/14/5	
50	酒ほがひ	吉井 勇 著	昴発行所	1910	911.16/≒3/4	
51	花檉	北原 白秋 著	改造社	1928	911.16/≒1/3	
52	太虚集	島木 赤彦 著	古今書院	1924	911.168/≒7/	
53	近代文芸之研究	島村 滝太郎 著	早稲田大学出版部	1909	904/≒1/1	
54	自然主義盛衰史	正宗 白鳥 著	六興出版部	1948	910.26/≒1/2	
55	啄木遺稿	石川 啄木 [著]	東雲堂書店	1913	≒7/8/5	

社会主義思想との邂逅

No	書名	編著者名	出版者	出版年	請求記号/所蔵先	館外貸出
56	青年に訴ふ	クロボトキン 著	彰考書院	1946.3	363.8/≒1/1	
57	石川啄木と大逆事件	吉田 孤羊 著	明治書院	1967	≒7/≒1/15	○
58	啄木全集 第10巻	石川 啄木 著	岩波書店	1954	≒7/918.6/13/1-10	
59	秋水文集 上	幸徳 秋水 著	竜吟社	1947	304/≒1/4-1	
60	幸徳秋水の日記と書簡	[幸徳 秋水 著]	未来社	1954	289.1/≒11/2	
61	東京朝日新聞 (マイクロフィルム複製)	明治43年(1910)6月5日 「無政府党の陰謀」				
62	性急な思想	石川 啄木 著	河出書房	1951	≒7/8/7/13	
63	平出修遺稿	平出 修 著	平出禾	1917.1	913.6/≒23/1	
64	社会主義詩集	児玉 花外 [著]	日本評論社	1949	911.56/≒1/1	
65	明治社会主義史料集 第3集 新紀元【複製版】	労働運動史研究会 編	明治文献資料刊行会	1961	363.021/≒1/3	○
66	種蒔く人	—	種蒔き社	1921.11	S/051/≒2/1-2	
67	秋訕笛語	石川 啄木 著	河出書房	1950	≒7/8/7/20	
68	渋民日記	石川 啄木 著	河出書房	1950	≒7/8/7/21	
69	啄木と小国露堂	盛合 聡 著	熊谷印刷出版部	1990	≒7//≒13/2	○
70	時代閉塞の現状 中央公論 第80年第11号	石川 啄木 著	中央公論社	1965.11	≒7/4/9	
71	新編石川啄木全集 第10巻	石川 一 著	改造社	1939	≒7/8/4/10	
72	岩手日報 (マイクロフィルム複製)	明治42年(1909)11月14日 「百回通信(23)」				
73	呼子と口笛【自筆ノートの複製】	石川 啄木 [著]	盛岡啄木会	1975	≒7/15/10	○

No	書名	編著者名	出版者	出版年	請求記号/所蔵先	館外貸出
74	石川啄木直筆ノート悲しき玩具【「一握の砂以後」手稿の復刻】	〔石川 啄木 著〕	盛岡啄木会	1980	タ/11/25	○
75	石川啄木	金田一 京助 著	文教閣	1934	タ//キ1/4	
76	我等の一団と彼	石川 啄木 著	東雲堂書店	1916	タ/3/5	

物語に見る啄木

No	書名	編著者名	出版者	出版年	請求記号/所蔵先	館外貸出
77	愛の永遠を信じたく候 啄木の妻節子	澤地 久枝 著	七つ森書館	2013. 1	タ/913. 6/カ	○
78	ぼく啄木	陽羅 義光 著	かりばね書房	2007. 3	タ/913. 6/ヒ	○
79	石川啄木 上・下巻	梁取 三義 著	国書刊行会	1975	タ//ヤ3/3-1・2	
80	26年2か月	松田 十刻 著	盛岡出版コミュニティー	2009. 11	タ/913. 6/マ	○
81	啄木の妻-節子星霜	山本 卓 著	同時代社	2008. 6	タ/912. 6/ヤ	○
82	泣き虫なまいき石川啄木	井上 ひさし 著	新潮社	1986. 6	タ//160/1	○
83	石川啄木 不死鳥のように	藤川 健夫 著	洋々社	1978	タ//75/1	○
84	石川啄木	廣瀬 進一 著	三笠書房	1956. 12	タ//16/1	○
85	わが心の石川啄木	高橋 愁 著	書肆茜屋	1998. 6	タ/913. 6/カ	○
86	石川くん	枅野 浩一 著	朝日出版社	2001. 11	タ/911. 162/マ	
87	啄木鳥探偵処	伊井 圭 著	東京創元社	1999. 5	タ/913. 6/イ	○
88	啄木と金田一京助肖像[写真]				石川啄木記念館	

啄木の生涯

幼少時代～『あこがれ』刊行

石川啄木（本名一^{はじめ}）は、明治19年（1886）岩手県南岩手郡日戸村（現盛岡市日戸）の常光寺に生まれました。父は同寺の住職であり、啄木誕生の翌年、一家で隣村の渋民村（現盛岡市渋民）宝徳寺に移り住みました。

啄木は渋民尋常小学校を卒業後、盛岡高等小学校に進み、同31年（1898）、盛岡尋常中学校（後に盛岡中学校に改称）に入学しました。上級生の^{きんだいちきょうすけ}金田一京助（言語学者）や^{のむら}野村胡堂（小説家、銭形平次の作者）らの影響を受けて文学に興味を持ち、文芸誌『明星^{みょうじょう}』を愛読して歌作を始めます。やがて文学活動に熱中し過ぎて学業を怠るようになり、同35年（1902）5年生の秋に退学、文学で身を立てることを決意し上京します。

『明星』主宰の^{よきのてつらん}与謝野鉄幹・^{あまこ}晶子夫妻を訪問し知遇を得ますが、職を得られず東京での生活に行き詰まり、病を患って帰郷します。その後故郷で暮らしながら文芸雑誌に作品を発表し続け、少年詩人として注目を集めるようになります。同37年（1904）に再び上京、翌年5月詩集『あこがれ』を刊行しました。

結婚～北海道流浪



婚約時代の啄木と節子
[石川啄木記念館提供]

明治38年（1905）19歳の啄木は中学時代からの恋人・^{ほりあいせつこ}堀合節子と結婚、盛岡市に新居を構えます。宝徳寺の住職を罷免された父も含め、一家の生活を啄木が一身に背負う中、友人の援助を得て文芸誌『小天地』を発行しました。盛岡中学時代の旧友から、与謝野鉄幹など中央の著名な文学者まで多彩な面々の寄稿がありましたが、経済的に成功せず1号で廃刊、生活の窮迫から渋民に帰り、母校渋民小学校の代用教員となります。長女^{きょうこ}京子も生まれ、「日本一の代用教員」を自負して意欲的に生徒に対しますが、校長排斥のストライキ事件を起こし、1年で免職となります。

同40年（1907）5月啄木は家族と別れ、北海道に渡りました。函館で文芸誌『^{べにまごやし}紅苜蓿』の同人・^{みやざまいくう}宮崎郁雨らに迎えられ、小学校の代用教員と新聞記者の職を得ます。しかし函館大火のため3ヶ月で職を失い、以後新聞記者として、札幌、小樽、釧路を転々となりました。「釧路新聞」では編集一切をまかされるなど敏腕をふるいますが、同41年（1908）4月釧路を去り、家族を函館の郁雨に託して、創作活動に専念するため単身上京しました。

上京～朝日新聞入社

明治41年(1908)4月上京した23歳の啄木は、東京帝国大学を卒業して中学校教師となっていた学生時代の先輩・金田一京助の下宿に転がり込みます。ここで日夜創作に没頭し「菊池君」「病院の窓」などの小説を書き上げますが、いずれも出版社には売れず、金田一の月給が実際、二人の生活費となりました。11～12月に小説「鳥影」を「東京毎日新聞」に連載し、上京後初めての収入を得ますが、文壇の反響は乏しかったようです。

翌42年(1909)、前年終刊した『明星』の後身として『スバル』が創刊されました。啄木は最初の1年間、発行名義人を引き受けるとともに、多くの作品を発表しました。しかし、なかなか小説は評価されず、文学的にも生活的にも極度に行き詰まります。

同年3月、生活に窮した啄木は、盛岡出身の「東京朝日新聞」編集長・佐藤北江きとうほっこうを頼って、同新聞社の校正係となります。収入の安定を得た啄木は、本郷弓町ゆみちよう(現在の文京区)の床屋「喜之床きのとこ」2階に間借りし、家族を呼び寄せました。



啄木と金田一京助
[石川啄木記念館提供]

『一握の砂』刊行～終焉

明治43年(1910)、啄木は『ふたばていしめい二葉亭四迷全集』の校正を任され、また9月からは「東京朝日新聞」紙上に設けられた「朝日歌壇」の選者となりました。翌月、誕生間もない長男真一しんいちの死去に遭いながらも、12月には歌集『一握の砂』を刊行しています。この歌集は、生活を歌うという独自の内容と、三行書きという新しい表現形式で歌壇内外の注目を集めました。

同年6月、幸徳秋水こうとくしゅうすいら社会主義者が天皇暗殺の陰謀容疑で逮捕された「たいぎやくじけん大逆事件」が起こります。啄木は事件の検証に熱意を燃やし、この事件が当局により捏造されたものであることを知ります。これを契機に、啄木は社会主義思想に関心を深めていきました。

同44年(1911)2月、啄木は慢性腹膜炎のため入院します。3月に退院してからは肺結核を患い、妻と母も相次いで病に冒されました。病気と貧困に苦しみながら創作を続けた啄木でしたが、同45年(1912)4月13日に亡くなりました。享年26歳。第二歌集『悲しき玩具』は、その死の2ヵ月後に刊行されています。

啄木の思想をたどる

～第1章～

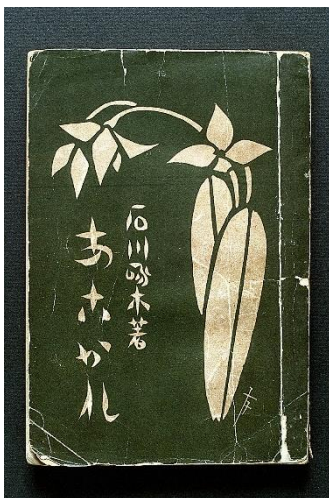
ロマン主義・天才主義期

ロマン主義文学

ロマン主義とは18世紀ヨーロッパに興った文化・精神運動です。それまで主流であった古典主義・教条主義（理性的・合理的で「完全な美」を求める）への反発から生まれ、個人の主観を重視し、自我の解放と確立を目指しました。恋愛や自然賛美、過去への憧憬、民族意識の高揚など、抒情的かつ感情的な表現がその特徴です。ロマン主義の潮流は文芸・美術・音楽・演劇など様々な分野に及び、西欧近代国民国家の形成にも寄与することとなります。のちにその反動としての自然主義・写実主義をもたらしました。

日本では明治中頃に西欧ロマン主義の影響を受け、森鷗外もりおうがいの小説『舞姫』によってロマン主義文学が始まりました。その他小説では樋口一葉ひぐちいちよう『たけくらべ』や国木田独歩くにきただとつぽ『武蔵野』、泉鏡花いづみきょうか『高野聖』など、詩歌では島崎藤村しまざきとうそん『若菜集』や与謝野晶子よせのあきこ『みだれ髪』、評論では高山樗牛たかやまぢゆう『美的生活を論ず』などがロマン主義文学の主な作品として挙げられます。大正初期には自然主義への移行によって衰退しますが、「ロマン主義の終焉した大正時代」という意味を込めて、当時の文化世相を「大正浪漫たいしょうろまん」と呼んでいます。

啄木の初期創作



石川啄木『あこがれ』
小田島書房 明治38年

明治中頃の日本歌壇は雑誌「明星」を中心とした浪漫派が多く活躍していました。当時中学生だった啄木は情熱的なロマン主義文学、および高山樗牛をはじめとする天才主義思想に傾倒していきます。自らも文学者を志し、生活苦や一家扶養の義務に追われながらも文学への野心を捨てず、19歳で詩集『あこがれ』を刊行し若き天才詩人としてデビューします。

初期の啄木作品からは、やや大仰で浮世離れした印象を受けます。啄木はのちに自らの詩作を振り返り、「実感を詩に歌ふまでには随分煩瑣な手続を要した」「空地を広野にし、木を大木にし、日を朝日か夕日に（中略）した上でなければ、其感じが当時の調子に合はず、又自分でも満足することが出来なかつた」、また当時の心境として「朝から晩まで何とも知れぬものにあこが

れてある心持」^{ほか}「其心持の外に私は何も有^もつてみなかつた」と述べています。この時点での啄木は詩人をもって自ら任じながらも、作品に込める強い思想性を持つにはいまだ至らず、浪漫派の作風を模倣するにとどまっていたと考えられます。

北海道時代を経て

実生活を顧みることなく文学に没頭していた啄木も生活の困窮は如何ともしがたく、明治 39 年（1906）、故郷渋民村の小学校代用教員として働き始めます。「教育の真の目的は人間をつくることである」として子どもの自主性・創意性を引き出すことを目指した啄木の教育論は、教育勅語に則る当時の画一的な教育にあっては非常に先進的なものでした。しかし理想が高すぎた故か村人との折り合いが悪く、翌年にはストライキ騒ぎを起し免職となります。

同年 5 月、心機一転を図り渡った北海道の地から啄木のさらなる苦難が始まります。最初の函館では同じく代用教員の職を得ますが、こちらは大規模校であった為理想の教育を行う余地がなかったと見え、渋民時代の熱心さは失われてしまいます。8 月からは新聞記者との兼業を行いますが、勤め始めた矢先に函館大火によって 2 つの職場を失います。その後も職を求めて札幌・小樽・釧路と約一年間の漂流生活を続けた啄木は、辛い現実生活に直面せざるを得なくなったことにより、徐々にその思想を変化させてゆくこととなるのです。

札幌時代までの啄木は「予が天職はついに文学なりき」「社会主義は要するに低き問題なり」と書くなど、いまだ文学を現実生活よりも高尚なものと捉えている節がありました。しかし小樽での社内紛争（暴力事件）を経ての翌 41 年（1908）元旦には、「この驚くべき不条理はどこから来るか。いう迄もない社会組織の悪いからだ」として初めて社会主義運動への理解を覗かせています。啄木の意識が空想的ロマンチズムからリアリズムへと向かった一つの転換点と見ることができます。

またちょうどその頃東京で起こった自然主義の潮流は、遠く北海道の啄木の耳にも届いていました。釧路時代の評論『卓上^{たくじょういっし}一枝』では自然主義について言及し、思想・文学の両分野に跨る新たな運動として期待を寄せています。さらに、自ら依拠してきた「一元二面観」



啄木（左下）と函館・首蓆社^{ぼくしゅうしゃ}同人たち
[石川啄木記念館提供]

哲学を「一種の生活幻想ではあるまいか」としてその限界を認めており、これまでの思想を脱しつつあることが窺えます。

再び創作熱の高まった啄木は、「小生の文学的運命を極限まで試験する決心」で最後の上京を行います。

啄木と小説

『あこがれ』以降の啄木は、次第にその興味を詩歌から小説へと移していきます。思想を表現するにあたっては、文字数の少ない詩歌よりも、登場人物に託して語ることのできる小説の方が適していると考えたためでした。渋民代用教員時代には自らをモデルにした小説『雲は天才である』や、『面影』『葬列』といった作品を執筆しています。しかし公開された作品は少なく、創作ノートには未完の作品が多数残されています。

北海道漂流を経ての明治41年（1908）4月、5度目の上京をした啄木は、小説家として生計を立てるべく執筆に専念します。そして『菊池君』『母』『病院の窓』『天鷲絨』『二筋の血』など多くの作品を書き上げ売り込みますが、全く売れずに困窮することとなります。自らの命運を賭けての勝負であっただけにその落胆は大きく、また啄木を頼りに北海道で知らせを待つ家族を呼び寄せることも叶わずに、啄木の苦悩はいよいよ深刻なものとなっていきます。

小説から短歌へ

一方、小説が認められない苦悩の中で、啄木は実に多くの短歌を残しています。啄木はその理由として「ちやうど夫婦げんかをして妻に敗けた夫が、理由もなく子どもを叱ったり虐めたりするやうな一種の快感を、私は勝手気儘に短歌といふ一つの詩形を虐使することに発見した」と語っています。私たちがよく知る啄木短歌は、小説を書けなかった挫折感から生まれたものでもあったのです。

啄木は生涯に3000から4000程の短歌を作ったとされていますが、最も多く作歌した時期がこの明治41年（1908）であり、特に6月23日から27日までの5日間でなんと260首もの歌を詠んでいます。追い詰められた啄木から、爆発的に歌があふれ出てきたかのようには思われます。この時期の創作は歌稿ノート『暇ナ時』にまとめられ、のちの歌集『一握の砂』への足掛かりとなります。

新しい短歌

啄木は短歌創作を再開するにあたり、従来の短歌の定型から離脱し、新しい歌の作り方を

見出そうとしていました。エッセイ『歌のいろいろ』では、「凡そ全ての事は、それが我々にとって不便を感じさせるやうになつて来た時、(中略)遠慮なく改造を試みるが可い」「我々の歌の形式は萬葉以前から在つたものである。然し我々の今日の歌は何處までも我々の今日の歌である」と語っています。5.7.5.7.7.の一行書き下しから3行書きへの移行、字余り・字足らずの多用、また自然や季節の描写にとどまらずに思いつくまを平易な言葉で表現するなど、独自の歌風を生み出しました。

自ら「歌は私の悲しい玩具である」と語っているように、本当に書きたかった小説ではなく短歌が評価されたことは、啄木にとっては不本意なことであったかもしれません。しかし、短歌とはこうあるべきという既成概念を壊し、実際の生活に即した抒情詩として生まれ変わった啄木の功績は、日本近代詩の発展過程において非常に大きいものであったと言えます。

若き日の思想

当時流行していた進化論は、日本では「優勝劣敗・適者生存」という思想として、富国強兵政策など様々な主義主張を裏づける議論に利用されました。

啄木が中学時代から傾倒した高山樗牛は、進化論やニーチェの主義を踏まえて個人主義、天才論を唱えます。これは競争原理のもと、本能、権力意志を重んじて自己の発展と個人の解放を図ろうとする欲望自然主義、個人的なロマンチズムとも言える思想でした。『岩手日報』掲載の「古酒新酒」で啄木は、「凡庸なる社会は、一人の天才を迎へんがためには、よろしく喜んで百万の凡俗を犠牲に供すべき也」と書いており、教育論「林中書」も、樗牛の天才論を踏襲して天才主義の考え方が色濃く反映されています。

このようにエリート意識をまもっていた啄木ですが、「樗牛に目を覚まして、戦つて、敗れて、考へて、泣いて、結果は今の自然主義(広い意味における)！」と日記にその敗北を記しています。啄木は天才主義を棄て、強者由来のナショナリズムを棄て、相互競争に代わり社会をより進歩させる新しい考えを模索していきます。

～第2章～

自然主義歌人として

自然主義文学

自然主義文学とは、19世紀末にフランスでエミール・ゾラが提唱した、自然科学に根差した視点に基づく文学、及びそこから影響を受けた日本の20世紀前半の文学をいいます。

ゾラは自然の事実を観察し、「真実」を描くために、あらゆる美化を否定しました。ゾラの作品は進化論や『実験医学序説』の影響を受け、実験的展開を持つ小説の中に自然とその法則の作用、遺伝と社会環境の因果律の影響下にある人間を描き、見出そうとするもので、1900年代日本の文学界に大きな影響を与えました。坪内逍遙らによる写実主義を経て、小杉天外は『はつ姿』、永井荷風は『地獄の花』などを著しました。日本自然主義は、島崎藤村の『破戒』、田山花袋の『蒲団』を経て確立し、「早稲田文学」を本拠に評論活動を行った島村抱月や長谷川天来も、自然主義文学の可能性を広げようとしました。しかし、自己に忠実な内面芸術であろうとするあまり、作家の私生活及びその周辺に題材は限られ、文学として小規模かつ社会性に乏しく、日常生活を芸術として表現することに終始した形になりました。

歌壇と自然主義

日露戦争後、文壇に高まった自然主義の思潮は歌壇にも及び、明治41年(1908)11月、雑誌『明星』の廃刊を転機として、歌壇においては浪漫主義が退潮し、自然主義的傾向が前面に強く押し出されてきました。この頃から大正3年(1914)頃までの歌壇は自然主義短歌の時代といえます。

啄木によると、前勢力である浪漫主義歌人・与謝野鉄幹は「自然派などといふもの程愚劣なものはない」と言ったといいますが、自然主義短歌は、表現上は平明率直な詠嘆や印象的・感覚的な描写、散文的な調子が著しく、内容的には現実の生活を凝視し、自己の真実に徹しようとして、そこに懐疑的、自己否定的な人生観がうかがわれます。

自然主義歌人としては若山牧水、前田夕暮を筆頭に、土岐哀果、啄木(生活派)、吉井勇、北原白秋(類唐派)、島木赤彦、斎藤茂吉ら(写実派)といった面々が活躍しました。

また、森鷗外が観潮楼歌会を催して浪漫派・新詩社と写実派・根岸短歌会の歌人たちを接近させたことは、近代短歌の進展に大きく寄与したと言えます。

『食ふべき詩』

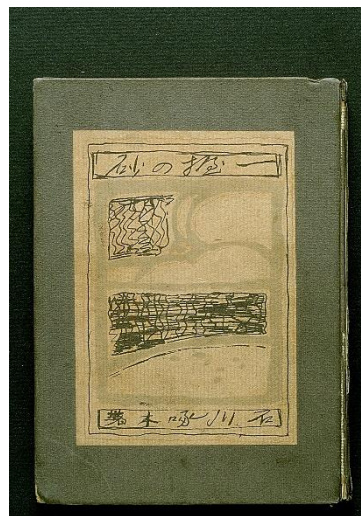
初めて公に自然主義に言及した評論『卓上一枝』を経て、明治42年(1909)に書かれた評論『弓町より(食ふべき詩)』を境に、啄木の短歌観や歌風には著しい変化がありました。啄木はこの評論で現在の詩観を述べていますが、詩の存在理由を肯定する唯一の方法として、詩を「珍味乃至は御馳走ではなく、我々の日常の食事の香の物」のような存在にすべきだと説いています。そして詩人はまず人でなければならず、自分の中で刻々と変わる心の変化を虚偽粉飾することなく、正直に記載報告しなければならないとしています。時代の言葉

で表現された口語詩や、現実生活に即した内容の詩を、啄木は求めたのです。

啄木は「財産なき一家の糊口の責任」の苦痛から、次第に「空想文学に対する^{けんえん}倦厭の情」を感じ、「両足を地面に喰つ付けてみて」「実人生と何らの間隔なき心持を以て歌ふ」ことを宣言しました。そして「私は最近数年間の自然主義の運動を、明治の日本人が四十年間の生活から編み出した最初の哲学の萌芽であると思ふ」と言っています。生活の中から生まれた哲学というのは、「いかに生きべきか」という課題です。

啄木と自然主義

日本の自然主義文学は身辺をあるがままに表すことに心を砕き、社会的な広がりを持たないという指摘があります。文学を夢見がちで空想的なものから地に足の着いたものへと移行させようとしたことに、この思潮の意義は見出せませんが、現実^{じゆんじつ}に即した中から人間的な共感を求めていこうとする風潮が広がる中で啄木は、「諸君は、詩を詩として新しいものにしようといふ事に熱心なる余り、自己及び自己の生活を改善するといふ一大事を閑却してはゐないか」と問いかけます。そして自然主義を単に文芸上の問題と見て、あるがままを容認し何ら解決を求めないのは問題であるとし、自己、社会、国家と切り結び、これらを改善していこうという意識、判断力、勇気を持って創作に向かうことが詩人のあるべき姿と考えました。啄木は日常の経験や生活感情を率直平明に歌った点で、自然主義の代表歌人と言えますが、評論「時代閉塞の現状」では自然主義と強権国家の問題を述べて「今日」の研究と「明日」の必要の発見を求めており、やがてその作品には社会主義思想への接近、理解が歌われるようになっていきます。



石川啄木『一握の砂』
東雲堂書店 明治43年

～第3章～

社会主義思想との邂逅

社会主義の思潮

自由主義経済や資本主義の弊害に反対し、より平等で公正な社会を目指す思想や運動、体制が社会主義です。社会主義は、生産手段の社会的共有と管理を目指す共産主義（特にマルクス主義）とその潮流を指し、各種の社会改良主義、社会民主主義、一部の無政府主義、国

家社会主義なども含めた総称でもあります。産業革命のあと、資本主義が浸透したことで貧富の差が広がる中、こうした考え方が提唱されました。全てが国の所有となるので国民全員が平等になり、そのため大きな貧富の差がなくなるのが社会主義の大きな特徴です。しかし、競争がなくなることで経済の発展が停滞してしまう傾向があります。

ロシア革命により世界初の社会主義国家ができたことで、日本では自国の皇室などを批判する社会運動が起こるようになります。この運動を取り締まるため、のちの大正 14 年（1925）に制定されたのが治安維持法です。社会変革の考えをもつ作家は、それぞれの立場から様々な作品を発表しましたが、治安維持法と特別高等警察による社会主義、共産主義的思想の弾圧は年々厳しくなっていました。

■ 大逆事件と啄木

大逆事件（幸徳事件）とは、刑法第 73 条に規定されていた皇室に対する危害を禁じる「大逆罪」により、明治 43 年（1910）6 月に幸徳秋水らが逮捕され、翌年 1 月に 24 人に死刑判決が下るものの、恩赦による減刑で最終的に 12 名が処刑された事件です。

当時は新聞紙条例などの制約から自由な記事が書けない時代でしたが、東京朝日新聞社に勤務していた啄木は、本件の犯罪に関する一切の記事を差し止めるという報道管制から、この事件が権力者側によって捏造された冤罪である可能性が高いことを悟っていきます。友人の弁護士・平出修ひらいでしゅうより関係資料を借覧、裁判の様子や裁判記録内容を知った啄木は、事件の真相を後世に伝えようと当時の新聞記事を集めて記録を取ったり、獄中からの幸徳の書簡を写し取り、自らの注や感想を加え「A LETTER FROM PRISON」としてまとめたり、また評論「所謂今度の事」いわざる「時代閉塞の現状」を書いたりしています。

社会主義と文学

社会主義文学は社会主義的自覚に立脚した文学の総称で、1920～30 年代、プロレタリア文学の世界的高揚期に発展を見ました。社会主義国家の増大、資本主義国家及び植民地における社会主義運動の拡大を背景に現れた、素材、方法、主題などにおいて個人主義文学とは異質な文学です。

日本では 1900 年代初頭、徳富蘆花とくとみるかの『黒潮』第 1 編、木下尚江きのしたなおえの『火の柱』、『良人の自白』などの作品が現れ、児玉花外こたまかがいが『社会主義詩集』を出版、さらに白柳秀湖しらやなぎしゅうこの『駅夫日記』、啄木の評論「時代閉塞の現状」などが続きました。

明治の社会主義文学、大正中期の労働者文学の時期を経て、大正末年から昭和初年に至るプロレタリア文学運動の時代へとその系譜は続いていきます。

プロレタリア文学運動は、気分を反映する文学を排除し、アナーキズム（無政府主義）、社会民主主義、アバンギャルド（前衛）などの反資本主義的、反権力的な要素を持つ雑多な思想を経て、マルクス主義文学運動に純化、結晶していく過程とも言え、同人雑誌『種蒔く人』の発刊がその先駆けとなりました。

啄木と社会主義

啄木は明治 39 年（1906）渋民時代、「余は、社会主義者となるには、余りに個人の権威を重じて居る。さればといつて、専制的な利己主義者となるには余りに同情と涙に富んで居る。所詮余は余一人の特別なる意味に於ける個人主義者である」と日記に書き、社会主義とは距離を置いています。

同 40 年（1907）札幌で啄木は、小国露堂^{おぐにるどう}の勤める社会主義に関して「所謂社会主義は予の常に冷笑する所、然も小国君のいふ所は見識あり、雅量あり、或意味に於て賛同し得ざるにあらず、社会主義は要するに低き問題なり然も必然の要求によって起れるものなり」と言いますが、翌 41 年（1908）1 月、小樽で社会主義の演説会に行き、西川光二郎^{にしかわこうじろう}の演説に深い感銘を受け、社会主義は自分の思想の一部であると友人に語っています。そして「今は社会主義を研究すべき時代は既に過ぎて、其を実現すべき手段方法を研究すべき時代になって居る」と言いました。

「百回通信」第 23 回（『岩手日報』同 42 年 11 月 14 日）で啄木は、「聖代の恩沢」という言葉を使いながら、社会主義を肯定的に論評しています。

啄木思想の到達点

明治 43 年（1910）啄木が大逆事件を念頭に置いて書いたといわれる評論「時代閉塞の現状（強権、純粹自然主義の最後及び明日の考察）」では、広い視野のもとに社会と個人との関係を観察し、明日への方向を暗示しており、啄木の思想を知るうえで『悲しき玩具』『呼子と口笛』の詩歌と表裏をなす重要なものとされます。

瀬川深宛^{せがわふかし}の手紙（同 44 年 1 月 9 日）には、「僕は長い間自分を社会主義者と呼ぶことを躊躇していたが、今ではもう躊躇しない、むしろ社会主義は最後の理想ではない、人類の社会的理想の結局は無政府主義の他にない」「僕はクロポトキンの著書をよんでビックリしたが、これほど大きい、深い、そして確実にして且つ必要な哲学は外にない」「無政府主義はどこまでも最後の理想だ、実際家はまず社会主義者、若しくは国家社会主義者でなくてはならぬ」と書いています。

同 44 年（1911）のこと、啄木は金田一京助に対し、幸徳一派の考えに重大な過誤がある

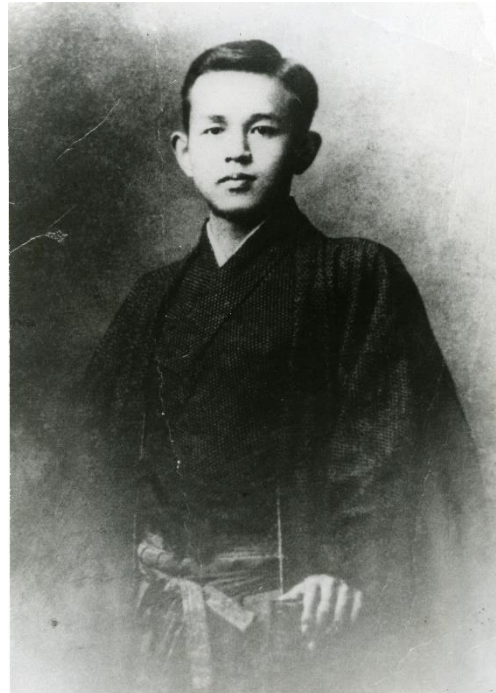
ことを悟ったとして、自分の抱く思想を仮に「社会主義的国家主義（社会主義的帝国主義）」と表現したそうです。

継がれゆく思想

啄木は、人間に必要なのは時代や社会に追従して上昇・出世することではなく、既成のものごとを批評しながら向上を目指す心である、と考えました。その理想の先は共同原理に基づく、民主主義と平和主義、そして福祉主義の相互扶助の社会だったと言えます。

時代の文芸思潮、社会思想とともに変化した啄木自身の主義・思想は、その時々々の作風に反映されていきます。安楽とはいいがたい漂泊の営みが啄木に求めたのは、甘美なロマンに浸ることであり、厳しい実生活の克服であり、全ての国民が等しく幸福に暮らせる社会の切望でした。

啄木には、自分の思想が時代より一歩進んでいるという自負がありました。当時の社会情勢と自身の病により自由な活動は阻まれたものの、「僕の野心は僕らが死んで、僕らの子供が死んで、僕らの孫の時代になつて、それも大分年を取つた頃に初めて実現される奴なんだよ」（『我等の一団と彼』）とあるように、自分の抱いた理想の芽が潰えることなく、次世代に受け継がれ穏健な改革を経て、のちの時代に確かに発現されるのを期待したのです。



啄木肖像写真
[石川啄木記念館提供]

■物語に見る啄木■

金策に苦しむ歌人・石川啄木が、同郷の先輩・金田一京助をワトソン役に探偵稼業を始めるミステリー小説『啄木鳥探偵處』。この作品のアニメ化を受け、小説・戯曲・エッセイなど、広く啄木を題材とした作品、啄木が登場する作品をご紹介します。

病苦と貧苦にあえぎながら、26歳の若さで世を去った薄幸の歌人・石川啄木。しかしその不遇な生活の中から多くの素晴らしい作品を生み出し、時代を経てなお、私たちに感動を与えてくれる——教科書に載っている啄木しか知らないという方は、もしかしたらこんなイメージをお持ちではないでしょうか。それも間違いではないのですが、もう少し踏み込んでみると、今まで知らなかった啄木の魅力を発見できるかもしれません。

物語に登場する啄木は、作品により人物造形も様々です。自信家・野心家・傲岸不遜・浪費家・嘘つき・甘えん坊・好色・サボリ魔・嗜虐的・ひ弱・頭でっかち……など、人間味あふれる、しかしどこか憎み切れない愛すべきキャラクターとして描かれています。

啄木の26年の人生航路や、その時々感情や思想、また周囲の人々との関係など、様々な角度から描かれた啄木に触れることによって、さらに石川啄木という人間およびその作品への理解が深まることと思います。



TV アニメーション『啄木鳥探偵處』

©2020 伊井圭・東京創元社／

「啄木鳥探偵處」製作委員会

主な参考文献

- ・『石川啄木全集』(筑摩書房 1978～1980)
- ・国際啄木学会編『石川啄木事典』(おうふう 2001)
- ・司代隆三編『石川啄木事典 改訂版』(明治書院 1970)
- ・岩手放送岩手百科事典発行本部編『岩手百科事典』(岩手放送 1978)

【啄木の生涯】

- ・『啄木歌集カラーアルバム』(芳賀書店 1998)
- ・『石川啄木 人と文学シリーズ 現代日本文学アルバム』(学研 1979)

【ロマン主義・天才主義期】

- ・渡辺順三〔ほか〕編『新編石川啄木選集5 啄木日記』(春秋社 1965)
- ・渡辺順三〔ほか〕編『新編石川啄木選集別巻 啄木入門』(春秋社 1961)
- ・平野博和著『石川啄木入門 啄木の思想・芸術・生涯』(垂水書房 1961)
- ・池田功著『石川啄木入門』(桜出版 2014)
- ・米長保著『歌のあれこれ 1』(鳥影社 2002)
- ・ルカ・カッポンチェッリ著『日本近代詩の発展過程の研究』(翰林書房 2018)

【自然主義歌人として】

- ・久松潜一〔ほか〕編『日本文学史 近代 改訂新版』(至文堂 1966)
- ・至文堂編集部編『用例にみる近代文学史用語事典』(至文堂 1970)
- ・国崎望久太郎著『近代短歌史研究 新版』(桜楓社 1977)
- ・田口道昭著『石川啄木論攷 青年・国家・自然主義』(和泉書院 2017)
- ・「短歌現代」2006年2月号(短歌新聞社 2006)

【社会主義思想との邂逅】

- ・碓田のぼる著『石川啄木 その社会主義への道』(かもがわ出版 2004)
- ・池田功著『石川啄木 その散文と思想』(世界思想社 2008)
- ・石川啄木没後百年記念誌編集委員会編『石川啄木の世界への誘い 石川啄木没後百年記念誌』(石川啄木没後百年記念事業実行委員会 2013)
- ・新木安利著『石川啄木の過程』(海鳥社 2019)

参考ウェブサイト

- ・ジャパンナレッジ Lib <https://japanknowledge.com/library/>

お願い

当館では石川啄木に関する資料を、網羅的に収集するよう努めております。「第34回啄木資料展」では、平成30年8月1日から令和2年7月31日までに収集した資料を展示しました。この2年間に出版、または製作された資料のうち、この目録にない資料をご存知でしたら、県立図書館までお知らせくださるようお願いいたします。

岩手県立図書館では 郷土に関する資料を集めています

郷土に関する資料とは、次のようなものです。

- 岩手県内に住む人または岩手県出身の人が書いた資料（※）
- 岩手県に関する内容、または岩手県に関係がある人のことを書いた資料（※）
（※資料…図書、雑誌、小冊子、CD、DVD、CD-ROM など）

このような資料を出版、製作された場合は、県立図書館へ御寄贈くださいますようお願いいたします。岩手県の貴重な文化的資料として、永く保存していきます。

御寄贈は、できるならば2部（貸出用・保存用）をお願いしております。

<送付先> 岩手県立図書館 資料管理担当
〒020-0045 盛岡市盛岡駅西通一丁目7番1号
(TEL) 019-606-1730

展示資料目録

第 34 回 啄木資料展

発行日 令和 2 年 10 月 27 日

発行者 岩手県立図書館

〒020-0045

岩手県盛岡市盛岡駅西通 1-7-1 いわて県民情報交流センター・アイーナ内

TEL 019-606-1730 FAX 019-606-1731

HP アドレス <http://www.library.pref.iwate.jp/>
